

高温対策

いいもの成らせるさくらんぼ便り

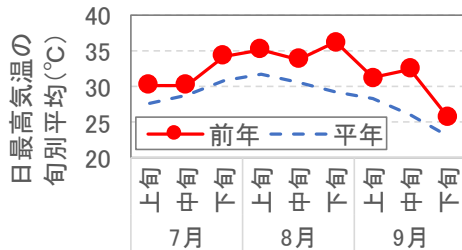
【**双子果対策特集号**】双子果対策も取り入れ、充実した花芽をつくろう！

【前年夏の高温の影響を踏まえた対応】

- 結今年果の** ・「紅秀峰」を中心に**双子果が多発**
 ・褐色せん孔病やハダニの発生等で、**早期落葉**や**樹勢低下**がみられた園地では**花芽の充実不良**や**貯蔵養分が不足**（結実や果実品質へ悪影響）
- 対今後** ・**今年は、前年同様に高温予報**のため、双子果の発生が多かった園地や樹を中心に、**双子果対策を実施**
 ・来年の高品質安定生産に向け、充実した花芽を作るため、
①礼肥、②灌水、③病害虫防除等の基本的な栽培管理を徹底

参
考

＜前年夏の気温（山形アメダス）＞



＜双子果の多い品種・部位＞

- ・主要品種の中では「**紅秀峰**」
- ・**樹勢が弱い樹**
- ・**日当たりの良い部位**
（樹上部、南側・西側の枝など）
- ・**明る過ぎる園地**（枝数が少ない）

1 今夏も高温予報のため双子果対策を実施

今年の発生状況を踏まえて、「紅秀峰」や全体に樹勢が弱い園地など、対象を明確にして、重点的に対策をしよう！

(1) 遮光ネットの設置

【設置期間】**7月中旬～9月上旬頃**（**昨年は7月下旬～8月下旬が特に高温**）【設置方法】**40～50%程度の遮光ネット**を雨除け被覆部分等の樹上部に設置

【注 意 点】設置期間が長過ぎる、遮光率が高過ぎると、花芽が小さくなる場合がある

【現地での対策事例】

- ・反射シート（白色、幅 1.8m）を南面や西面にパッカーで設置し、部分的に遮光



(2) 夏季剪定は実施しない又は時期を遅くする

【対 応】樹勢が極端に強い場合を除き、

① **基本的に実施しない**② **9月中旬以降に実施**

※花芽が形成され気温が高い盛夏期は実施しない

【注 意 点】「**紅秀峰**」は、双子果が特に発生しやすい樹勢も低下しやすいため**実施しない**

【園地や樹の状況を確認】

- ・十分に明るい樹や園地では、夏季剪定は不要



2 充実した花芽をつくるために基本的な栽培管理を徹底

< **適正樹勢の維持・誘導は、双子果対策にもつながる** >

(1) 礼肥の適期施用

【標準的な施肥量の目安(年間)】 15 kg/10a 程度(窒素成分)

- ◎ 以下の表を参考に、**生育状況（樹勢や着果量など）に応じて、年間施肥量や礼肥の割合を調整する**
- ◎ 礼肥は、**即効性肥料**を中心とし、**施肥後、降雨がなければ灌水**する

生育状況	・樹勢は弱い ・着果量は多かった ・地力は低い	・樹勢は概ね適正 ・着果量は平年並 ・地力は平均的	・樹勢は強い ・着果量は少なかった ・地力は高い
年間施肥量	前年より増やす	前年並	前年より減らす
年間施肥量に対する礼肥割合	50～100%	20～50%	0～20%

※**適正樹勢の目安**（目通りの新梢長）「**佐藤錦**」：20～30cm、「**紅秀峰**」：30～50cm

※礼肥割合が50%以上の場合、緩効性肥料も組み合わせる（例：即効性50%+緩効性50%）

※砂質、作土が浅く礫が多い等、肥料の持ちが悪い園地では7月と8月に分けて施肥する

(2) 灌水の実施

- ・乾燥しやすい夏季は **1週間を目安に、たっぷり（20～30mm程度）灌水**
- ・特に、**弱樹勢樹や幼木、水持ちの悪い園地**（砂質、礫質）では、土壤乾燥の影響で、樹勢が低下しやすいため、土壤の状態に応じて、灌水する

(3) 病虫害防除の徹底

早期落葉の悪影響

落葉による同化養分（貯蔵養分）の減少



- ① 花芽の充実不良
- ② 樹勢の低下

につながる！！

◎褐色せん孔病（発病してからでは抑えきれないため、**感染防止が肝心**）

- ・褐色せん孔病の発病が既にみられている
- ・降雨で感染が拡大するため、地域の防除暦を参考にして、**収穫直後から2週間間隔で3回以上防除**を実施
- ・**前年に多発した園地**は、本年の発病も多くなるため、**確実に防除を実施**



褐色せん孔病

◎ハダニ類

- ・**高温乾燥時に多発する**ため、薬液を丁寧にムラなく散布し、発生が多い部分（主幹部、樹上部等）は手散布で重点的に防除



カイガラムシ類

◎カイガラムシ類

- ・防除適期（8月上中旬頃）に、枝幹部に薬液がかかるよう十分量散布

熱中症対策は万全に実施しましょう！